

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和元年9月24日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅱ》</p> <p>ア. ニーズの把握及び広報、相談体制に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズ把握の工夫について ・ 広報の工夫について
調査研究のねらい	<p>○ 本県では、公立夜間中学と自主夜間中学のどちらも未だ設置されておらず、設置に向けた市町の動きもないのが現状である。しかし、近県の徳島県や高知県では令和3年度の開校を表明しその準備を進めているところであり、このような動向の中、本県においては、まずは夜間中学を必要とする方が県内にどの程度存在するのかをしっかりと把握する必要があると考え、ニーズ把握調査を行うこととした。設置を含めた今後の対応については、その結果をもとに市町と検討を行っていく予定である。</p> <p>ニーズ把握調査について他県では、紙面やインターネット、広報を使った調査を実施したものの、回収数が確保できないケース、調査内容がニーズ把握として不十分なケース当が見られたという報告もある。そこで本県では、他県の事例を参考に独自の調査方法を模索し、潜在的入学希望者がどの程度存在しているかを把握するため、2段階での調査を実施することとした。</p> <p>○ 現在、四国には夜間中学が存在せず、夜間中学について十分に知らない潜在的入学希望者が殆どであると考えられることから、周知のための効果的な広報について研究する。</p>
調査研究の成果	<p>調査研究の工夫点</p> <p>I ニーズ把握調査について</p> <p>(1) 想定される調査の対象者を絞り込んだ</p> <p>夜間中学での生徒の受け入れは、次のア・イ・ウのようになり、本県ではそれぞれ対象者を以下のとおり絞り込むことで、段階を踏んだ計画的な調査を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 義務教育未修了者 対象（高齢者、いわゆる同和地区住民 等） イ 義務教育形式卒業者 対象（若者・ひきこもり者 等） ウ 外国籍の者 対象（在住外国人 等）

(2) 形式的な調査にとどまることがないように、「事前ヒアリング・協力依頼」、「本調査」という2段階で調査を実施する

〔調査方法〕

①-1事前ヒアリング

絞り込んだ対象者についての情報を持っていると思われる関係機関等にヒアリングを行って、入学希望者等の有無等を調査する

<関係機関(例)>

「高齢者」→香川県老人クラブ連合会 他

「若者」→香川県社会福祉協議会、各民生委員 他

「ひきこもり者」→各市町適応指導教室 他

「いわゆる同和地区住民」→香川県隣保館協議会

「受刑者」→高松保護観察所、高松刑務所

「在住外国人」→香川県国際交流協会 他

①-2「協力依頼」

事前ヒアリングで情報収集した結果をもとに、協力者に調査票の配布・配置の協力依頼を行った。

①-1、①-2により、682か所の県内関係機関等の協力を得ることができた。【参照：別添エ 結果概要報告書】

②「本調査」

調査票を用いる。【参照：別添ウ 別紙調査票】

<調査票の工夫点>

- ・ 外国人にも対応できるように県内在住外国人数を調べ、その数に基づき6か国版を作成した。
 - ☆ 日本語版、中国語版、タガログ語版、英語版
 - ☆ ベトナム語版、スペイン語版
- ・ 手軽に、負担なく回答できるように回答方法を工夫した。
 - ☆ 料金受取人払い郵便はがきを投函する方法
 - ☆ QRコードを読み取り、インターネット上で回答する方法
- ・ 簡単に回答できるように質問項目を4点に厳選した。
 - ☆ 夜間中学での学ぶ希望の有無
 - ☆ 夜間中学で学びたい理由
 - ☆ 学ぶことが可能な設置場所(市町)
 - ☆ 回答者の住所地

Ⅱ 広報について

(1) 事前ヒアリング・協力依頼を通じての広報

関係機関・団体等の訪問や、関係者が集まる会議での説明の機会等を通じて、調査の趣旨や夜間中学の具体について詳しく説明することができた。相手方からの質問も多々あり、関心の高さを感じた。

(2) 調査票を通じての広報

調査票での夜間中学の説明では、時間割表を載せるなど学校生活の実際を分かりやすくすることや、学校行事を記載することで夜間中学の魅力を伝えること等を工夫した。報道関係者からの取材を受け、新聞記事やテレビのニュース番組に取り上げられることもあった。

(3) コンビニエンスストアや商店での配置による広報

本調査では、県内の多くのコンビニエンスストアや商店から協力を得ることができた。各店舗では、出入口等の大勢が行き交う場所に調査票を配置し、多くの人が目にする事となった。

調査結果概要【参照：別添エ 結果概要報告書】

○ 総回答数 500件（はがき494枚、web6件）

- ・ あなたは、夜間中学で学んでみたいと思いますか？または、夜間中学のことを知らせたいと思う人があなたのまわりにいますか？（複数回答あり）

(人)

1. 自分が学んでみたい	<u>171</u>
2. 身近にいる	133
3. 思いつく人がいる／団体などがある	78
4. 学びたいと思わないし、まわりにもいない	168
計	550

「1. 自分が学んでみたい」と回答した171名中

- ・ あなたが、夜間中学で学んでみたい理由を教えてください。

(人)

1. 中学校を卒業していないから	8
2. 中学校を卒業したが学び直したいから	<u>86</u>
3. 外国人であり、知識や技能を学びたいから	<u>73</u>
4. その他	4
計	171

調査研究の成果のまとめ

① 調査研究を進める過程において、682か所の県内関係機関・団体・店舗等に協力を得ることができた。

また、調査票を各所に設置できたことにより、調査票を通じて夜間中学の認知度を上げる広報活動につながったことも成果としてとらえている。調査票を手にし、電話にて夜間中学の具体についての質問や香川県の現状についての問い合わせなどが6件あり、直接来所し調査への協力を伝えに来られた方が4人いた。

新聞やテレビ等のメディアを通じて調査が行われていることが報じられることもあった。

② 今回の調査を通して、夜間中学のニーズに関する県内の全体的な傾向については把握できたものの、具体的な設置については、まだ、検討すべき議題があるため、今回の調査結果を各市町教育委員会と共有し、協議していく。

③ 夜間中学で学んでみたいと回答した171名のその理由は「中学校を卒業したが学び直しをしたい」が86名、「外国人であり、知識や技能を学びたいから」が73名となっており、この2点が理由の大多数を占めた。他の都道府県同様に香川県においても外国人のニーズが高いことが示された。